



## いん石<sup>せき</sup>はどうして落ちてくるの<sup>お</sup>

### 岩石<sup>がんせき</sup>などのかけらが地球<sup>ちきゅう</sup>にしょうとつする

宇宙<sup>うちゅう</sup>から地球<sup>ちきゅう</sup>に落ちてくる岩石<sup>がんせき</sup>などのかけらを、いん石<sup>せき</sup>といいます。地球<sup>ちきゅう</sup>から見ると、いん石<sup>せき</sup>は「落ちてくるもの」ですが、落ちてくるのではなく、地球<sup>ちきゅう</sup>にしょうとつしているのです。

太陽系<sup>たいようけい</sup>の中で、火星<sup>なか</sup>と木星<sup>かせい</sup>の軌道<sup>もくせい</sup>（通り道<sup>きどう</sup>）の間に、小わく星<sup>と</sup>とよばれる、直径<sup>あいだ</sup>数メートル<sup>しょう</sup>から千キロメートル<sup>せい</sup>の、小さな天体<sup>ちい</sup>が無数<sup>てんたい</sup>にあり、太陽<sup>むすう</sup>の周り<sup>たいよう</sup>を公転<sup>まわ</sup>（決まった道<sup>こうてん</sup>すじで回る）しています。小わく星<sup>き</sup>の中には、地球<sup>ちきゅう</sup>の軌道<sup>な</sup>の内側<sup>ちきゅう</sup>まで入りこみ、地球<sup>ちきゅう</sup>に接近<sup>せつきん</sup>したり、しょうとつする可能性<sup>かのうせい</sup>があるものもあります。いん石<sup>せき</sup>は、このような小わく星<sup>しょう</sup>のかけらが、地球<sup>ちきゅう</sup>にしょうとつしたものです。

### 燃えつきない物<sup>もの</sup>がいん石<sup>せき</sup>として落ちる<sup>お</sup>

いん石<sup>せき</sup>が地球<sup>ちきゅう</sup>にしょうとつするときの速さ<sup>はや</sup>は、1秒間<sup>びょうかん</sup>に数十キロメートルという速さ<sup>すうじゅうつ</sup>です。いん石<sup>せき</sup>がこのような速さ<sup>はや</sup>で、地球<sup>ちきゅう</sup>にしょうとつする前<sup>まえ</sup>に、いん石<sup>せき</sup>は、地球<sup>ちきゅう</sup>をとりまいている空気<sup>くうき</sup>とこすれあって、非常<sup>ひじょう</sup>に高温<sup>こうおん</sup>になります。

ふつうは、この高い熱<sup>たか</sup>によって、いん石<sup>せき</sup>が地上<sup>ちじょう</sup>にくるまでに、全部<sup>ぜんぶ</sup>燃えつきてしまいますが、大きい物<sup>おお</sup>は全部<sup>もの</sup>燃えつきないで、残<sup>のこ</sup>ったものが地上<sup>ちじょう</sup>に落ちてくることがあります。これが、いん石<sup>せき</sup>です。

いん石<sup>せき</sup>には、石<sup>いし</sup>でできている石質<sup>せきしつ</sup>いん石<sup>せき</sup>、鉄<sup>てつ</sup>でできているいん鉄<sup>てつ</sup>、石<sup>いし</sup>と鉄<sup>てつ</sup>が半分<sup>はんぶん</sup>ぐらい混ざり<sup>ま</sup>あっている石鉄<sup>せきてつ</sup>いん石<sup>せき</sup>があります。地球<sup>ちきゅう</sup>に最も<sup>もっと</sup>たくさん落ちてくるいん石<sup>お</sup>は、石質<sup>せき</sup>いん石<sup>せきしつ</sup>です。（監修・国司 真）

